プロジェクト 1

小規模・高齢化が深刻な集落におけるコミュニティの維持・活性化

ものづくりによる地域貢献
～被災時避難所としての廃校活用提案～

実 施 体 制 ： 近藤 正一、濱永 康仁（建築学科）

実施フィールド： 大分市佐賀関町木佐上地区

連 携 機 関 ： 木佐上コミュニティーセンター

概　要

建築学科では、１年次から３年次まで各学年に通年科目として「プロジェクト１～３」が開講されており、１年前期の「プロジェクト実習」と合わせて〈プロジェクト系科目〉として位置付けられている。プロジェクト系科目では、１年次に地域における体験交流活動を経験し専門教育の学修に対する動機付けを図り、２年次は専門知識の修得と定着を目指す様々な実践教育を行い、３年次にはより高度な調査・分析に基づく提案を目指す課題解決型学修に取り組む。これら一連の学修サイクルを明確化させるため、各コースにおいてプロジェクト系科目を中心とする専門教育科目の体系化が図られている。そして、それらの中間段階を担う２年通年科目「プロジェクト２」では、とくにインテリアデザインコースとのカリキュラム連携の中で、ものづくりによる地域貢献の技術と豊かな感性を身につけることを目的とし、具体的な地域課題に対する解決方法の提案を行う。

「プロジェクト２」の授業風景

取組内容

旧木佐上小学校は、廃校後、木佐上コミュニティーセンターとして活用されており、木佐上地区の被災時避難所に指定されている。また、近年、避難所での長期間の避難生活において個人や家族のプライバシーを守るためのパーティションが全国的に注目されていることから、「プロジェクト２」では、高機能なパーティションの開発提案とモックアップによる実際の使用報告を課題として取り組んだ。履修した学生たちは、おもに竹材を使用した軽量で扱いやすい躯体を作ることにより、簡便に安心できる空間を生み出すための最適な間仕切りの方法を考案し、実際に制作し木佐上コミュニティーセンターで報告した。

アイデアスケッチの例

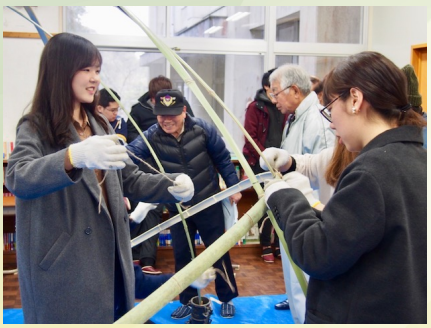
地域での成果

スタードームと呼ばれる簡易なスケルトンに様々なインフィルを組み合わせることで、用途や目的に合わせた多様かつ魅力的な仮設空間を構築することに成功した。木佐上地区の方々に活用していただける提案となり、さらなる取り組みへの期待から、次年度の活動へつながる成果を上げることができた。

木佐上コミュニティーセンターでの発表会の様子

学生の学び

全履修生に対し、各自およびグループごとの取り組みについて振り返るためのレポート提出を義務づけた。１年次に育んだ動機付けが実を結び、より専門性を活かした具体的な提案として結実させることができた。また、チームワークによるプロダクトデザインという高度な課題を十分な水準で成し遂げることができ、これまでの学修へのフィードバックとなるとともに、今後の学修サイクルへとつなげることができる学びとなった。



モックアップ組み立て実演の様子

今後の展開

今回の提案や作品発表は、一定の評価を得たものの、未だ発展の余地があると目される。次年度は、カリキュラムの連携をさらに強化するとともに、指導体制の見直しや今年度までのノウハウを活かした課題の再設定により、実効性の向上を目指す。

NBU 日本文理大学
NIPPON BUNRI UNIVERSITY
〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL:　097 - 592 - 1600(大代表)
Web : http://www.nbu.ac.jp
【COC事業担当】
TEL/FAX : 097 - 524 - 2663(直通)
Web : http://coc-nbu.jp
e-mail : coc@nbu.ac.jp

おおいた、つくりびと

『おおいた、つくりびと』について。

私たちは、このプロジェクトを『おおいた、つくりびと』と名付けました。
お金やモノだけでは計ることができない「ほんとうの豊かさ」とは何だろう。
日本の未来を担う若者ができることは？
きっと、その答えはひとつではありません。
だからこそ今、私たちは動き始めます。
そのステージは、私たちの大学がある大分県。
大分への愛着を勇気に変えて、大分でしかできないことにチャレンジします。
地域の皆さんとともに、もっともっと元気なまちをつくります。
私たちは大分県の未来を拓く
『おおいた、つくりびと』になりたい。